



行日：令和6年12月24日（火）

## 「褒め言葉の力」

支援部

今年度から、初任者として本校に赴任させて頂き、日々の学校生活で、高特生の挨拶など礼儀の正しさや何事にも意欲的に挑戦する態度に本当に感心をさせられます。私は、これまでに長い間、小学校現場で教員をさせて頂いていましたが、子どもたちと関わる中で褒め言葉の大切さを感じてきました。今回は、高校生への誉め言葉を紹介していきます。保護者の皆様、生徒の皆さん、そして、教員にとっても褒め言葉の力は計り知れないものがあります。一言の褒め言葉が心の支えとなり、大きな力を与えてくれます。

例えば、自己肯定感を高めることにも褒め言葉は重要になります。自己肯定感が高い人は、困難に直面しても、何事にも前向きに取り組んだり、挑戦したりできます。「最近のあなたの努力は本当に素晴らしいよ」というように、具体的な努力を認めて褒める言葉は、相手に対する深い理解と尊敬の気持ちを伝えます。これにより、相手は「自分の努力は無駄ではない」と感じ、さらなる努力へとつながります。褒めるときのポイントは、できる限り具体的な内容で褒めることで、相手はより認められていると実感でき、自信がつきます。

勉強や部活動を頑張る生徒たちへは、「毎日の努力、本当にすごいと思うよ。その一步一步が大きな成長になっているよ」と声をかけることで、日々の勉強や部活動での努力を認め、彼らのモチベーションを高めます。また、夢や目標に向かう生徒たちへは「夢に向かって、進むあなたの背中、本当に格好いいよ。どんな時も応援しているからね」と声をかけることで、目標に向かう過程で直面する困難や挫折にも乗り越える力となり、勇気を与えます。

このように、生徒たちが日々の生活や将来の夢に向かって頑張る中で、褒め言葉は、心に深く響き、無限の可能性を引き出す魔法のような力を持っています。言葉一つでよい方向に変わる可能性があります。様々な場面で、褒め言葉を選び、生徒たちの夢や希望を応援していきましょう。

### やる気を出す褒め方5選

1. 具体的に褒める。
2. 本人が気づいてなさそうなことを褒める。
3. 現在進行形で褒める。
4. まだできていないことも褒める。
5. 人前で褒める。

出典：エイムアット

## 褒め言葉一覧 (A+Bで文をつくる)

A

- <行動や姿(～姿を見ると)>
- ・～して頑張っている姿、
  - ・テストを受けている姿、
  - ・部活動で～している姿、
  - (例: 声を出している姿、アタックしている姿など)
  - ・背に白かっている姿、
  - ・汗をかいている姿、
  - ・勉強している姿、
  - ・勇気をもって～している姿
  - ・～を繰り返している姿、
  - ・～を真似している姿、
  - ・見えない所で手を抜かない姿、
  - ・一生懸命～している姿、

- <状態>
- ・そのままの〇〇さん、
  - ・失敗している〇〇さん、
  - ・迷っている〇〇さん、
  - ・〇〇さんの瞳(姿勢)、
  - ・〇〇さんの笑顔、
  - ・(解題用紙を見て)
  - ・(その生徒の特技を見て)
  - ・(勉強書の様子を見て)
  - ・(質問された時に)
  - ・(手伝ってくれている姿を見て)
  - ・(その他、行動している姿を見て)

+

B

- ・幸せになれる
- ・ぐっとくる
- ・ワクワクする
- ・嬉しい
- ・胸が高まる
- ・涙がでるほどうれしい
- ・感謝の思いで胸がいっぱい
- ・胸にジーンとくる
- ・言葉にならない(できない)
- ・エネルギーをもらえる
- ・自分にはできない
- ・うらやましい
- ・流石
- ・超人
- ・〇〇さんの影響
- ・〇さんが力を発揮できた
- ・〇〇さんのおかげ
- ・精進中学生
- ・(生徒の持ち物に対して) その△△、私も～。
- ・〇年後がとても楽しみ
- ・みんなが〇〇さんに釘づけ
- ・頼りになる
- ・ドキドキする
- ・見ていて安心
- ・ありがたう
- ・感動
- ・家族にしたい。

- ・カッコいい
- ・よく考えている
- ・輝いている
- ・素敵
- ・まっすぐ
- ・親孝行
- ・いい
- ・性格がいい
- ・活躍できる
- ・絶妙
- ・さりげない
- ・頑張っていない
- ・優しい
- ・積極的
- ・力強い
- ・努力している
- ・頑張っている
- ・才能がある
- ・意思が強い
- ・明るい
- ・成長した
- ・集中力がある
- ・新しい
- ・一流
- ・みんなのことを考えている
- ・アイスアイディア
- ・似合っている
- ・大人
- ・大きく羽ばたく
- ・光っている
- ・将来大きなことをやり遂げる
- ・神
- ・センターを取れる

- ・100年かかってもしない
- ・〇〇さんに今度、△△の授業してほしいな。
- ・△△、写真撮らせてもらっていい?
- ・僕のこの手帳にちょっと△△してもらっていい?
- ・〇〇さんが△△しているところ、家に飾っておきたい。
- ・有名になった時、〇〇さんサインを一番にもらおうから。
- ・この△△、ガチでうらやましい。
- ・〇〇100段?
- ・〇〇中学校で一番が〇〇うまい
- ・〇〇の達人
- ・△△のプロ
- ・ノーベル賞級
- ・△△100年くらい習っているみたい
- ・〇〇中学校のお手本
- ・習字の本に載った字よりもきれい
- ・〇〇さんの△△、めっちゃくちゃ品がある
- ・〇〇さんの△△、すごい見えて飽きない
- ・単に△△がうまいだけではない、〇〇さんらしさがある
- ・〇〇さんの△△、繊細なのに迫力がある
- ・超一流
- ・オーラ
- ・センスのかたまりですね
- ・ラライスレス
- ・ここ△△の部分、極めていい
- ・将来大物になる

### 褒め言葉をさらに増やすための視点

- 未来のことを褒める。
- 頑張ったり努力を褒める。
- 褒めてほしいことを見つけてほめる。
- 外見や(こだわって)もっているものを褒める。
- 初めて～できたことを褒める。
- 継続していることを褒める。
- 「努力、過程」を褒める。
- 「結果」を褒める。
- 「ありのまま」を視点を変えて褒める。
- 「BESTであること」を褒める。
- 「ONLYであること」を褒める。
- 工夫していることを褒める。
- 当たり前のことを褒める。
- 生徒への光の当て方を変える。
- 生徒が自分だけの力では気づかない部分に

### 褒め言葉をより効果的にするためのヒント

- 肩を叩かず褒める。
- 本気の顔で(作らぬ顔ではない)褒める。
- 体全体で褒める(身振り、手振り、顔の表情)。
- 褒め顔を友人先生などに見てもらおう。練習するのがよい。
- 褒めたい生徒と良い関係でなければ、無理はしない。
- 本気でそう思っていることが伝わらない。
- 詳細ではない。上から目標はアフト。
- 生徒の名前を入れる(名前を言う時は、特に大事に心を込めて丁寧に言う)。
- 握手しながら言う(同性の生徒に対して)。
- 関係がよい生徒へは、大げさに褒める
- 関係がよくない生徒へは、関係の良い先生に伝えてもらう
- 「誰でも気づいていること」を褒めるなら、「どのように褒めるか(言葉を選ぶ)」に重点をおく。
- 誰も気づいていないことを褒めるなら、「相手の何を褒めるか(視点を選ぶ)」に重点をおく。
- 生徒、状況により、言い方を変える。
- 例: 丁寧語(～です、ます)、断定(～だ)、単語だけを言う、砕けた言い方(～的な)
- 褒めるには感性が必要である。感性を磨くこともおろせない。
- 「生徒を心から褒めたい」という気持ちがあることが大原則。常に意識していると、「褒めのアンテナ」が高くなる。

### その他の褒め言葉

- <杖刺をつける>
- ・〇〇さんは、まだ分かっていないのかもしれないけれど、
  - ・〇〇さんは、気づいていないかもしれないけれど、
  - ・自分自身ではそうは思わないのかもしれないけど、
- <程度を表す言葉を付ける>
- ・いつも
  - ・本当に
  - ・すごく
  - ・ガチ
  - ・めっちゃ
  - ・相当(相当頑張った、相当練習したなど)
- <褒める時に困った時「嬉しい」>
- ・嬉しい、嬉しい、本当に私は嬉しい
  - ・～してくれて嬉しい
  - ・～だから嬉しい
  - ・～でも嬉しい